

MUJI
無印良品

良品計画のBOPビジネス ～バリューチェーン分析を用いたユニ リーバとの比較～

大東文化大学 Cチーム
飯塚瞳・内村結花・津留大輔・中村実由

目次

1. (株)良品計画のBOPビジネス
2. ユニリーバのBOPビジネス
3. 2社のBOPビジネス分析
 - ・バリューチェーン分析概要
 - ・2社の強み
 - ・2社の成功要因分析
4. 考察

株式会社 良品計画

- ・ 無印良品やMUJIブランドの商品開発・製造・販売（小売店舗）の展開を行う製造小売企業
- ・ 「Café&Meal MUJI」「IDÉE」の展開やキャンプ場の経営
- ・ 「感じ良い暮らしと社会」へ向けてグローバルに貢献
- ・ 個店経営の集団として世界水準の高収入企業体を目指す

BOP①

ミャンマーでのコーヒー豆製造

- ・ 南シャン州の少数民族は、重労働を要するケシの栽培が収入源であった
- ・ 政府と国際薬物犯罪事務所が土地に適するコーヒーの栽培転換を推奨され後に、「グリーンゴールド組合」が設立



BOP①

良品計画の取り組み

- ・ 良品計画は取り組みに共感し、小粒のコーヒー豆を適正な価格で買い取る
- ・ インターネットなどを通じて国際市場に販売
- ・ コーヒー生産農家の収入を増やし、南シャン州でのケシからコーヒーへの栽培転換を支援している



BOP②

インドでのオーガニックコットン製造

- ・オーガニックコットンとは、農薬や科学肥料を3年以上使用していない土地で、自然の仕組みに沿って作られたもの
- ・オーガニックコットンを生産する上で、女性が手で摘み、男性が水やりなどの力仕事を行う。



BOP②

良品計画の取り組み

- ・良品計画では、1999年からオーガニックコットン農場と契約を結び、取り組みを進行
- ・こうした労働集約的な作業により、現地で雇用の安定と生産者が安心して栽培できる状況を実現
- ・生産者が安心して栽培できるように現在も仕組み作りをしている



ユニリーバ (UNILEVER N.V/UNILEVER PLC 蘭/英)

- ・オランダとイギリスに拠点を置く、世界有数の一般消費財メーカー
- ・主に家庭用品を製造・販売する多国籍企業

<主なブランド>

食品:リプトン スキンケア:ヴァセリン

パーソナルケア:LUX Dove



- ・企業ビジョンは環境負荷を減らしながらビジネスの規模を増やすこと
- ・「サステナビリティを暮らしの当たり前にする」という価値の実現を目指す

BOP① ライフボウイの戦略



→石鹼を「サシェ」という小分けパックにすることで、
単価を抑え、BOP層のニーズに合う価格の製品を開発

・「ライフボウイ・スワチャテトナ」

→石鹼を知らないなどといった生活習慣を見直すため
に行われた施策



BOP②

プロジェクト・シャクティ

- 2000年にインド南部の農村部で開始されたプロジェクト
農村部には店舗が無く、販路も無いため、継続したコミュニケーションが図れないといった問題点を解決するための施策
- 農村の女性たちを個人事業主として雇い、製品を訪問販売された
- 売上の一部を女性たちに還元する





2社の成功要因を比較 ～バリューチェーン分析～

バリューチェーン分析とは

- ・原材料を調達してから商品やサービスが顧客に届くまでに企業が
行う活動の連鎖(チェーン)を付加価値の連鎖として捉えたもの
- ・個別の活動ごとに分析することで、どの工程で高い付加価値が
生み出されているかを明確に把握できる
- ・外的要因などにより自社の強みの整理が可能となる



2社の強みとは

<良品計画>

→ 『調達』に特徴がある。

コーヒー豆をミャンマーで栽培することや、オーガニックコットンをインドで栽培している事例の通り、途上国原材料の調達を発展途上国で行っている。

<ユニリーバ>

→ 『物流』に特徴がある。

インドで、「シャクティアマ」と呼ばれる女性たちに個人事業主として製品販売を委託することで、途上国に向けて新たな販路を生み出した。

なぜBOPビジネスが成功したのか

<良品計画>

→環境や貧困にビジネスで貢献する為、ミャンマーの事例にもあるように、農家の収入増加や、環境負荷の改善に成功した。

→インドでのオーガニックコットン生産では、男女で仕事の役割分担をすることにより、安定した雇用状態を維持させることに成功した。

<ユニリーバ>

→現地で製品を売ることにより、女性の経済的自立や農村の生活・衛生環境の改善に繋げることに成功した。



2社を比較した考察

良品計画とユニリーバ の共通点

1. 途上国の人々に仕事を依頼することで、安定した雇用状態を保つことに成功した
2. 途上国の環境負荷の軽減を図った

2社がバリューチェーンにおいて焦点を当てた工程は異なったが、発展途上国に対して貢献したい方向性は同じであったことがわかった。

参考文献

良品計画

https://ryohin-keikaku.jp/news/2020_0917.html

<https://www.muji.net/lab/report/100505-organic.html>

ユニリーバ

https://www.britishcouncil.jp/sites/default/files/soc-si-forum-unilever-jp_0.pdf



ご清聴ありがとうございました。